

moVision プロジェクト

重点プロジェクト ⑧：リアルタイム全線監視（多機能ポール）

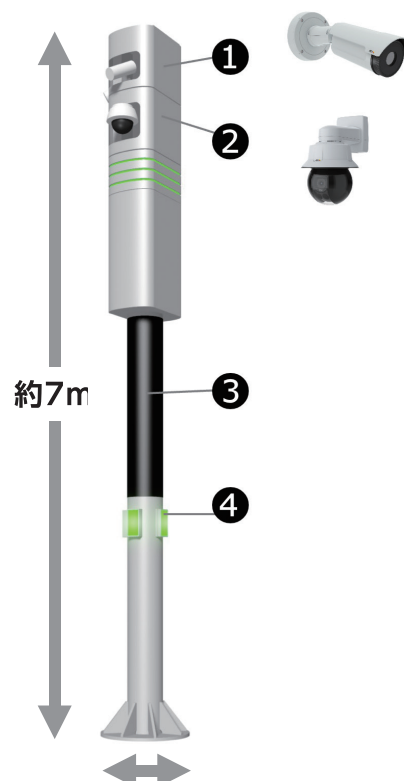
多機能ポールは、高速道路上の事故や落下物等の道路情報を面的かつリアルタイムに収集するために、「次世代高速道路の実現に向けた実証実験（東北自動車道 鹿沼 IC ～宇都宮 IC 間）」において約 300m 間隔で設置する設備です。

【多機能ポールのデザイン・主な設備】

- ・ 高さ約 7m、ポール上部に 2 種類のカメラを搭載
- ・ ポール上部はモジュール構造とし、カメラ以外のセンシング機器や路車間通信設備などの取り付けが可能
- ・ ドライバーへの注意喚起のためのインフォメーションライトも設置

設備名	設備概要
① 遠赤外線カメラ	・ 夜間、豪雨等の悪天候下での監視 ・ 1ポールに2基配置
② 可視光カメラ	・ 主に昼間での監視 ・ 1ポールに1基配置
③ フィルムソーラー（太陽光発電）	・ 太陽光発電パネルをポールに巻き付けて、「④インフォメーションライト」へ電力を供給
④ インフォメーションライト	・ 平常時は緑色に点灯 ・ 事故等の発生時に赤色や橙色に点滅し注意を喚起

※今後、多機能ポールは LiDAR などのセンシング機器や、路車間通信設備等の搭載も検討する予定です。



約7m
約50cm
多機能ポールイメージ

【多機能ポールの性能】

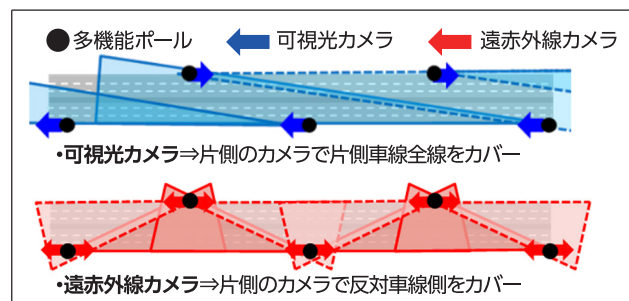
- ・ 2 種類のカメラ（可視光カメラ、遠赤外線カメラ）で日中・夜間・気象条件を問わず監視し、路面に死角がないようにカメラを配置することで切れ目なく全線監視を実現。



可視光カメラ映像



遠赤外線カメラ映像



カメラのカバーイメージ

日中・夜間・気象条件を問わず監視

切れ目なく全線を監視



「自動運転社会の実現を加速させる
次世代高速道路の目指す姿（構想）」

詳しい情報はコチラ⇒

